令和２年度「学び合い」
第２回「国語」授業研究より

９月１８日（金），第四中学校にて，第２回校内授業研の「国語」の授業が行われました。事後協議では，「学び合い」の手法や課題設定について，国語のみならず各教科での効果的な活用を議論することができました。また，三原市教育委員会深見敬子指導主事からは，「学び合い」の活動に生徒指導の三機能（①自己決定の場を与える・・・振り返り，②自己存在感を与える・・・名前カードをはる，③共感的人間関係を育成する・・・自ら聞きに行く）が十分に生かされていることや，学習集団の雰囲気についてご講評をいただきました。

“助光ワールド”へ引き込まれる

できた生徒は第2・第3の先生に

他の人の説明を聞くのも「学び合い」

協 議 会 の ま と め

１．　今日の授業から　～「学び合いの手法」について～

○　「助光ワールド」で子どもたちの良い雰囲気が醸成された。子どもたちの真剣な表情がその証拠。
分からないことを「分からん」と言える，笑われない雰囲気づくり。

○　“職人技”を伝え，広める「学び合い」・校内研修にしていけると良い。

○　「学び合い」の原則／スタイルについての確認

①できた人は全員ができるまで机に座らない。その活動の良さは，他の人が教えている意見や説明を聞くことによって，自分の考えを深めることができる。その中でいろいろな攻略法がでてきたら広げる・深める「学び合い」になる。座っていると損をすることを子どもたちに語りたい。

②「学び合い」の課題設定として，はっきりと答えがでてくるものの方が取り組みやすい。難易度としては，はじまって１５分くらいで初めの生徒が答えをもってくるくらいがよいのではないか。

２．深見敬子指導主事の指導助言から

○　子どもたちを引っ張る助光先生の力が光った。好きにしているように見えて，学習している子どもたちの姿に学級経営の成果が現れている。

○　「学び合い」の活動の中に，生徒指導の三機能が随所に生かされる授業づくりがなされていた。
自己決定の場は振り返りの時間・確認テストに，自己存在感は名前カードに，共感的人間関係は自ら分からないところを聞きに行き，分かるところを教え合う姿に。

○　学習集団が，分からないことなどばかにする言い方ではなく，認め合う言い方になっていた。日頃の授業・先生方の教育活動の賜物。

○　授業づくりにおいて，いかに学ぶ必然性を持たせ，「目標」・「ねらい」を具体化・明確化していくか。ここに教材研究の腕が試される。

○　生徒の学びを活発にさせる授業を考えていきたい。